

市民参加推進会議
ヒアリング対象事業 質問及び回答

事業番号 18 白井市障害者計画 2026-2032 策定事業（障害福祉課）

質問事項	回答																												
【審議会に関する質問】																													
無作為抽出以外の公募委員が2名ともに池の上小学校区、36歳から50歳で男性ですが、何故偏ったと思われる選出となった理由を教えてください。	本委員会は、学識経験者、障害者団体や支援団体等の推薦委員が15人中12人となっており、すでに決定している委員の年齢構成、男女比、地域、所属団体等とのバランスがとれるよう基準を定め、それに市政への参画経験や応募動機などを加味した基準により、優先順位の高い方から選出しています。 推薦委員と重複する地域、年齢の方は指数を低く、推薦委員に女性が多かったことから、男性の指数を高くして選定し、総合指数により決定いたしました。																												
会議開催の周知場所、方法は最適でしたか。	会議開催の周知につきましては、議会事務局、HP、情報公開コーナー、図書館で実施しており、会議録の公表においては、情報公開コーナー、HP、図書館で実施しました。 提出した評価調書のチェックが一部もれており、申し訳ございません。																												
【アンケートに関する質問】																													
アンケート調査の対象者別の回収数と回収率を教えてください。	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び障害児通所支援支給決定児より2,000人（無作為抽出）、手帳を所持しない市民500人（無作為抽出）、市内公立中学校に通学する中学2年生全員に対しアンケートを実施しました。 <table><tr><th>区分</th><th>①身体障がい</th><th>②知的障がい</th><th>③精神障がい</th><th>④障がい児</th><th>⑤一般市民</th><th>⑥中学生</th></tr><tr><td>サンプル数 (票)</td><td>1,097</td><td>223</td><td>402</td><td>278</td><td>500</td><td>654</td></tr><tr><td>有効回収数 (票)</td><td>568 紙 503 Web 65</td><td>102 紙 76 Web 26</td><td>176 紙 125 Web 51</td><td>140 紙 78 Web 62</td><td>208 紙 143 Web 65</td><td>538</td></tr><tr><td>有効回収率 (%)</td><td>51.8 %</td><td>45.7 %</td><td>43.8 %</td><td>50.4 %</td><td>41.6 %</td><td>82.3%</td></tr></table>	区分	①身体障がい	②知的障がい	③精神障がい	④障がい児	⑤一般市民	⑥中学生	サンプル数 (票)	1,097	223	402	278	500	654	有効回収数 (票)	568 紙 503 Web 65	102 紙 76 Web 26	176 紙 125 Web 51	140 紙 78 Web 62	208 紙 143 Web 65	538	有効回収率 (%)	51.8 %	45.7 %	43.8 %	50.4 %	41.6 %	82.3%
区分	①身体障がい	②知的障がい	③精神障がい	④障がい児	⑤一般市民	⑥中学生																							
サンプル数 (票)	1,097	223	402	278	500	654																							
有効回収数 (票)	568 紙 503 Web 65	102 紙 76 Web 26	176 紙 125 Web 51	140 紙 78 Web 62	208 紙 143 Web 65	538																							
有効回収率 (%)	51.8 %	45.7 %	43.8 %	50.4 %	41.6 %	82.3%																							

【アンケートに関する質問】	
アンケート調査で中学2年生を対象とした理由を教えてください。	前回、令和4年度の基礎調査より、これまで成人のみに行ってきたアンケートの対象に、障害児通所給付を受ける子どもたちと保護者を加えました。今回の基礎調査より、障がいのある子どもたちだけではなく、広く子どもたちの意見を聞くこととしたもので、徐々に範囲を広げているものです。 今回は子どもたちへのアンケートの初回であることから、一般成人との対比がしやすい年代を検討しました。 その際、コンサルタントより、学生を小学生、中学生、高校生以上と分類した場合、小学生は今回のアンケート内容が難しいということ、高校生以上は、倫理観が強くなるため、回答内容が偏りやすいこと、中学生に実施する場合、環境変化や受験のある1年、3年生と比較し、学年的に落ち着きのある2年生が適していることの助言があり、他市の事例も参考とし、中学2年生に実施しました。 また、本計画は7年間の長期計画であることから、7年後に成人となる現中学2年生の意見は、自分が成人になった時の市のあるべき姿の策定に参加することとなり、有意義であると考えております。
中学生アンケートで得られた意見は、計画のどの部分にどのように反映されたのか教えてください。	中学生へのアンケート内容については、一般のアンケートとの対比を行うため、一般アンケートに内容を寄せつつ、今回は学校内で実施するため、教育委員会と相談し、必要最小限な項目とし、学校で答えやすい内容により実施したところです。 自身に障がいのあるという立場からの意見は、障害者施策の必要な部分に反映してまいります。 自身に障がいがないという立場からの意見は、障がいのある方について知っていただくための周知広報等の施策に反映してまいります。 また、アンケートは情報周知の側面もあり、アンケートの実施により、「障がいがある」ということは案外身近なことであり、「障がいがある」ということは「必要な支援が提供される」ということであると、子どもたちに認識してもらいたいと考えております。
アンケート調査の公表方法にメール配信がありますが、どのように実施したのか詳細を教えてください。	回答誤りです。公表はホームページを介したものと及び情報公開コーナーへの配架です。

【パブリックコメントに関する質問】	
パブコメがこれだけ多く出された背景について、教えてください。	これまで実施した計画策定に係るパブリックコメントにおいて、意見があまり提出されていなかったことから、関係団体や事業者に周知に努めたところ、関係団体、事業所からの意見が多くありました。 また、意見が提出しやすい環境を整えるため、前回パブリックコメントより電子申請を取り入れておりますが、今回その利用はありませんでした。 内容としては、障がい福祉サービスを提供している事業所からの意見、自身や家族に障がいがあることからの意見でしたが、事業所からの意見に生成AIの利用が見られたことから、技術的な革新によりたくさんの意見をまとめることが容易になったことも、件数が伸びた一因であると考えております。
【その他の方法に関する質問】	
障がい者団体・事業所ヒアリングで得られた意見は、課題整理や施策にどのように活用されたのか教えてください。	ヒアリングで顕著になった課題は、障害福祉サービスの充実、特別なニーズに対応できる体制や専門的人材を備えた事業所の確保、障害福祉サービスでは対応が難しい周辺サービスの充実、分かりやすい情報提供の推進などの部分に反映しています。
アンケート調査では意見が取得しにくいと判断し、ヒアリングを実施していますが、そのように判断された理由を教えてください。	アンケートでは市内の傾向を数値で把握できるのに対し、ヒアリングではその理由を詳細に聞き取ることができます。障害福祉は障がいの状態により、ニーズや感じ方が個々で異なるため、アンケートでは把握が難しい定性的な情報を補足することが必要であると考え、障がい者団体、障がい者支援団体及びサービス提供事業所に対し、ヒアリング調査を実施しているところです。